

まつどミュージアム

No. 9 2001年(平成13年)3月

■松戸の近現代史調査■

幕末・明治維新の世相を伝える『戊辰物語』

明治元年(1868)は、干支で言うと戊辰の年にあたり次の戊辰の年は、60年後の昭和3年(1928)でした。人間で言うと還暦にあたるため幕末に関する回顧談や史話、時代小説が多数出版されました。著名な古老の聞き書きをまとめた『戊辰物語』(東京日日新聞社社会部編)などは、その代表作と言えるでしょう。維新から60年後の日本は、文明開化、廃藩置県、自由民権運動、国会開設、日清日露戦争、関東大震災などを経て人々の生活ぶりは激変していました。明治38年(1905)発行の『幕末百話』(篠田篤造著)は、新聞に掲載された市井の人々の回顧をまとめた好著ですが、発行当時は、存命中の当事者が多かったせいか評判は芳しくありませんでした。この本は昭和4年『増補幕末百話』として復刊され、現在では『戊辰物語』と共に歴史小説家や脚本家の座右の書となっています。両書は、聞き書きにより構成されているため話し手の記憶違いや編集者の脚色が入っている可能性があります。当時の世相を知るには絶好の書と言えるでしょう。(両書とも現在は岩波文庫所収)

戦前、戦中、戦後のくらしを伝える書?

さて第2次世界大戦が終わったのは昭和20年(1945)、干支で言うと乙酉の年にあたります。次の乙酉は平成17年(2005)ですから誰かが『乙酉物語』を書くとしたら戦前、戦中、戦後のくらし、例えば戦前の銀座の様子、空襲、抑留引揚、進駐軍、闇市、筈生活、買出し列車のこと、そして生活の変化などをテーマに聞き書きを書くのでしょうか。「もはや戦後では無い」が流行語となったのは昭和31年(1956)です。この年までを仮に『乙酉物語』の範囲としますと本年度、松戸市立博物館で開催された美術展「デザインにっぽんの水脈」、企画展「戦後松戸

の生活革新」、学習資料展「教科書のなかの道具とくらし」はこの範疇に入っていると言えるでしょう。入館者の感想や見学中の様子を見てみますと中高年の方にとっては、自分の見たもの使ったものが博物館に展示されていることに深い感慨をお持ちになっていました。小学生を引率してきた先生方が、子供たちより熱心に展示を見ていたのが印象的です。また20代前半の方は、『ダイヤル式電話機』『チャンネル付テレビ』を初めて見たという方が多かったようですが、今や『ダイヤルを廻す』『切符を切る』などは死語となり、『和紙に墨で書かれた手紙』を見るには博物館に行かなくてはならないようです。

激変する景観と近現代史調査

ところで『乙酉物語』と『戊辰物語』との最大の相違点は、人間とモノは残っていますが、風景は失われたということです。空襲で主な都市は灰燼となり、戦災を受けなかった市町村も戦後、日本に導入された土木機械によって山や丘は崩され田畑は、区画整理されて住宅や団地が立ち並びました。海や川は汚染され、天気によければ東京や松戸から毎日見えていた富士山もスモッグにかき消されました。こ



対戦車壕の爆破 工兵学校八柱作業場(演習場)
撮影年月日不明(昭和12年以降撮影) 泰山青島氏寄贈



工兵学校生徒による江戸川の架橋訓練
昭和戦前期 香島善良氏寄贈

うして気がついてみると何気なく見ていた風景や日常生活の品々が、60年後には博物館に行かなくてはわからなくなる状況になっていることを鑑みると、戊辰戦争体験者や江戸の風景を記憶している職人さんなどから話を聞いたように松戸の近現代に関する調査を行い、その証言の裏付けとなる資料（書類、写真など）を収集、整理、保管しなくてはならない必要性が生じていると言えるでしょう。例えば現在の市内には、陸軍工兵学校（跡地は現在、松戸中央公園）とその広大な演習地（八柱・胡録台）があったこと、また終戦当時は、小金を中心に第93師団（秘匿名「決」部隊）の所属部隊が展開していたこと、松飛台には東京に来襲したB29に体当たり攻撃をかけた陸軍第10飛行師団第53戦隊の飛行場があったこと、県立松戸高校の敷地には高射砲第1師団所属の探照灯中隊が布陣していたこと、東部小学校は米軍戦闘機による銃撃をうけ、上矢切、河原塚、高塚新田の工場や民家がB29に爆撃され死傷者がでたこと、小金に東京都本所区緑国民学校（現、墨田区立緑小学校）の生徒が疎開していたことを知る人も少なくなりました。

近現代史関係資料は、膨大な量が残されているため情報の抽出に時間がかかる反面、旧軍関係資料は終戦時、軍の命令で焼却されていること、特に松戸市内に展開していた本土決戦用部隊は、外地に出征した部隊と比較して戦後、所属関係者による部隊史の編纂が行われていない場合が多いため資料が不足しているのが現状です。

今後も松戸の近現代史調査を進めるにあたっては、関係者及び資料の所在調査、土地の変遷状況など情報の収集に力を入れて行きたいと考えております。

（柏木一朗：近代史担当学芸員）

平成12年度の活動より

企画展 戦後松戸の生活革新

—新しい暮らし方へのあこがれ—

昭和20年後半から30年代にかけて、戦後高度経済成長とともに人々の生活は大きく変貌します。本企画展では、この変貌のなかで市民の人びとがどのような暮らしを送ってきたかに焦点を当てました。

■会期：平成12年10月7日（出）～11月26日（日）

■会場：松戸市立博物館企画展示室

■展示構成と主な展示資料

生活革新Ⅰ－生活改善運動

戦後、農村地域で展開された農家生活の合理化や改善に積極的に取り組む農民の育成などの生活改善運動の実態を、市内の農村での生活改良普及員の活動や生活改善クラブの実践例をとおして紹介しました。

農家生活白書「生活改良普及員の一日」（スライド）「或る農家の記録」（スライド）新聞記事等

生活革新Ⅱ－常盤平団地の誕生

松戸市が東京近郊の農村地帯から首都圏の住宅地へと大きく変貌する契機となった日本住宅公団による常盤平団地の建設について、誕生にいたる経過、入居者の様々な活動、そしてある家族の2DK生活の軌跡を追いました。

団地の案内パンフレット・ポスター・設計図類・造成計画反対運動の新聞記事・自治会報・団地生活の家族写真

生活革新Ⅲ－あこがれのかたち

あこがれの対象となった新しい暮らし方を演出したものと、家電製品と洗剤に焦点をあて、当時の人びとが生活革新の中身として何に価値を見出し何を追い求めていたのかを考えてみました。

テレビ・冷蔵庫・洗濯機などの家電製品・ライオン・ハイトップ・リビングなどの洗剤



あこがれのかたち—家電製品

■関連行事

期間中に、シンポジウム「戦後生活資料へのアプローチ」（10月29日）と講演会「戦後松戸の生活革新」（11月3日）、および展示解説会（10月15日・11月5日・19日）を開催し、多くの方が参加されました。

今回も市内外から多くの学校見学がありました 学習資料展 教科書のなかの道具とくらし

小学校3年生の社会科学習「かわってきた人びとのかくし」にあわせて開催する学習資料展も今年で4年目です（1月16日（火）～3月31日（土））。

今回は特に昭和30年～35年頃からの生活の大きな変化を実感してもらうために、41年前に入居を開始した市内常盤平団地での生活とそれ以前の生活の様子を見比べられるように展示を配置し、電灯と蛍光灯での生活も比較体感できるような工夫もしてみました。この時期は家庭で各種の家電製品が使われはじめ家事労働や娯楽の様相が一変する一方で、食事と就寝の場を別にする「食寝分離」や親子で寝室を分かち「分離就寝」など、多くの家電製品に囲まれたLDK生活という今日の住まい方の原型ができあがる時期です。現在に直接つながる過去をこどもたちはどのように見たのでしょうか。

今回も、展示室に石臼や手桶・背負子・さおばかりなどの使用体験コーナーを設け、また第2・4土曜日にはたらいや炭火アイロンを使う「ちょっと昔のせんたく&アイロン体験」を実施しましたが、総合学習の関係もあってか、今回の展示期間中に体験で使っている道具の貸し出し希望が何件もあり、昔の道具たちが館外でも活躍しました。自分たちで大事に育てた大豆を石臼で挽いてつくった黄粉はどんな味がしたでしょうか。「炭火アイロンは重かったけど、ちゃんとシワがのびた」「ひのきはフライパンみたいで楽しかった」「炭を水に入れたらジュといってけむりがでた」などなど…寄せられたこどもたちの感想文の1枚1枚から日頃の授業では味わえない感動が伝わって来るようです。



炭火アイロンを使う江東区立第四大島小学校3年生

年度はじめには「柿の木台遺跡出土品展」を開催しましたが、ここにも日本の歴史をはじめて学んでいる小学校6年生の学校見学が多数ありました。

歴史と自然をより身近に 連続講演会・自然史講演会・館長講演会

今年度は、例年の学芸員講演会や展示関連講演会にくわえて多くの講演会・展示解説を開催しました。

1 連続講演会

①日本列島の旧石器時代を語る（5回連続）

明治大学教授安藤政雄先生に旧石器時代研究の歩みから新しい旧石器時代像まで、5回にわたり最新の研究成果をわかりやすく語っていただきました。第4回目には岩窟文化資料館学芸員小菅将夫先生による石器の製作実演も行われ、旧石器文化に対する理解を深めてもらいました。（10月15日・22日・28日・11月5日・12日）

②江戸時代を語る（3回連続）

筑波大学教授佐藤雄雄先生には、江戸時代の実像、豊かさ、農村文化について3回にわたり熱のこもったご講演をいただきました。これまでにない視点からの江戸時代論に、認識を新たにされた参加者も少なくないと思われます。（11月19日・23日・26日）

2 自然史関連講演会

①松戸の自然を語る「都市に生きる野鳥の生態」

都市鳥研究会代表唐沢孝一先生に都市部にごく普通にみられる都市鳥の生態について語っていただきました。都市での自然の営みを身近に感じさせられた講演でした。（10月1日）

②日本の爬虫両生類と起源

テレビ等でおなじみの財団法人環境研究センター研究主幹千石正一先生にヘビ・カメ・イモリなどの爬虫両生類の知られざる生態について楽しく語っていただきました。会場は動物好きのこどもたちの熱気にあふれていました。（12月10日）

3 館長講演会

当館の岩崎卓也館長は長年にわたって考古学研究と後進の指導に携わってまいりました。その蓄積を基に、今年の1月より隔月で考古学に関する様々な問題について語ってもらうことになりました。1月27日には考古学の研究方法について、3月24日には市内貝の花貝塚をめぐる縄文時代のムラについて講演いたしました。新年度の5月から隔月で引き続き開催いたしますので、ご期待ください。

4 学芸員による展示スポット解説

従来より、常設展示の入門編ともいえるコンパニオンによるガイドツアーを実施してきましたが、より深く展示を理解していただく機会として昨年9月から毎週日曜午後2時30分より、展示の制作に関わった学芸員による展示のミニ解説を開始いたしました。展示にこめられた様々なメッセージをどのように読み解くのか、どんな歴史的意味を秘めているのか、そのヒントを提供する場になればと考えております。新年度も様々な角度からの解説を予定しておりますので、興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

平成13年度 博物館行事INFORMATION

※詳しい内容・参加申し込み等につきましては博物館までお問い合わせ下さい。

月	行	事	展 示
4月	☐ 館内公開① 4/8(日) ☒ こども自然観察会Ⅰ「春を告げる魚たち」 4/28(日) ☒ 映像でみる歴史と文化Ⅰ「20世紀 世界の記録 第1部」 4/28(土)・30(日)・5/3(祝)～6(日)		
5月	☒ 講座「紀行文を読む」 平成14年3月まで毎月第1・第3金曜日 ☒ 自然史講座Ⅰ「魚の標本製作と観察」 5/5(祝)・13(日) ☒ ガンダーラ調査報告会Ⅴ 5/6(日) ☒ ★体験教室「赤米をつくる」(全7回) 5/6・5/13・7/8・8/5・9/9・9/16・9/30いずれも(日) ☒ 鑑賞講演会「考古学を考える①」 5/26(土) 7月以降は隔月第4日曜日 ☒ ★体験教室「縄文時代の布をつくる」(全4回) 5/26(土)・27(日)・6/3(日)・9(日)・10(日) ☒ ■古文書講座「古文書を読む[近世入門編]」(全5回) 5/26～7/21の隔週土曜日		4/28(土)～6/10(日) 館蔵資料展 「文化財を治す— 寺僧等と紙の修復」
6月	☒ ★鑑賞休館 6/25(祝)～7/2(日)		
7月	☒ こども自然観察会Ⅱ「21世紀の森と広場のトンボたち」 7/28(土)・29(日) ☒ ☆夏休み1日学芸員 7/29(日) ☒ ☆夏休み体験教室「布を織る」 夏休み中開催予定		7/28(土)～9/24(日) 新出土資料展 「松戸の歴史発掘」
8月	☒ 映像でみる昭和の歴史「20世紀 世界の記録 第2部」 8/5(日)・9(祝)・13(日) ☒ ☆夏休み鑑賞教室「縄文時代のくらし」 8/17(日)		
9月	☒ ■古文書講座「古文書を読む[近世中級編]」(全10回) 9/12～11/14の毎週水曜日 ☒ 「松戸の自然を語る①」エビ・カニの語 9/24(日) ②「熊鷹樹林の語」 9/30(日)		
10月	☒ 「松戸の自然を語る③」クモの語 10/7(日) ④「フナの語」 10/14(日) ☒ 特別講演会① 10/21 ②「中世の東葛飾—いのり・くらし・まつりごと」 10/28(日) ☒ ★体験教室「縄文土器をつくる」(全5回) 10/21(日)・27(土)・28(日)・11/4(日)・18(日)		10/6(土)～11/25(日) 企画展 「中世の東葛飾— いのり・くらし・まつりごと」
11月	☒ 特別講演会③ 11/18(日) ☒ 講演会「松戸の歴史を語る」 11月開催予定		
12月	☒ 映像でみる歴史と文化Ⅱ「20世紀 世界の記録 第3部」 12/1～23の毎週土・日と12/24(日) ☒ 館内公開② 12/2(日)		
平成14年 2月	☒ 自然史講座Ⅱ「魚のつくり—透明化二重染色法による骨の観察」 2/3(日)・10(日)・17(日) ☒ ■考古学特講「考古学の方法」(全4回) 2/10・24・3/10・24いずれも(日) ☒ ■学習員連続講演会① 2/24(日) ② 3/3(日) ③ 3/10(日) ☒ ■松戸地域民俗学講座(全5回) 2/23・3/9・23・4/6・20いずれも(土)		1/16(水)～3/31(日) 学習資料展 「教科書のなかの 道具とくらし」
3月	☒ ■中世の資料を読む(全5回) 3/28～6/6の隔週水曜日		
通年	☒ ☆江戸時代装束実着体験 毎月第1日曜日①13:00～②14:00～③15:00～④16:00～ ☒ ☆ガイドツアー(常設展示解説) 毎日①10:00～②14:00～ ☒ ■学習員による展示スポット解説 毎日曜日14:30～14:50		

※□：一般対象単発行事 ■：一般対象連続行事 / ☆：小中学生対象単発行事 ★：小中学生対象連続行事
 ※連続行事は開始月に記載してあります。

ハイビジョン上映予定

★上映開始時間

平日：①13:15
(2回) ②15:15
土日祝：①11:00
(3回) ②13:15
③15:15

★場所：講堂

★観覧無料

※都合により予定を変更する場合があります。

月	ハイビジョンのタイトル	上映時間
平成13年		
4月	小さな旅 緑がつつむ谷の調べ～千葉県養老溪谷	28分
5月	5000年のタイムカプセル～巨大遺跡三内丸山の謎	30分
6月	映像詩 里山	49分
7月	トンボ王国～樋ヶ谷 雨の夏	44分
8月	サングの海に命の輝きを見た～沖縄・鹿児島諸島	44分
9月	故宮 至宝が語る中華五千年 第9集 美は江南にあり～南宋	60分
10月	故宮 至宝が語る中華五千年 第10集 亡国の文人たち～元	60分
11月	故宮 至宝が語る中華五千年 第11集 繁華城風雲録～明	60分
12月	故宮 至宝が語る中華五千年 第12集 最後の王朝～清	60分
平成14年		
1月	日本美再発見 藤の中の四季～京都・懐石料理	30分
2月	日本美再発見 はやりすたりの突然に～加賀友禅・誕生秘話	30分
3月	日本美再発見 赤への憧憬～有田・柿右衛門の挑戦	30分

上記の行事についてのお問い合わせは ☎047-384-8272 教育普及係まで

利用案内

★開館時間

★休館日

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 月曜日(ただし祝・休日にあたる時はその翌日)
 館内整理日(毎月第4金曜日)
 観覧期間(6月25日～7月2日)
 年末年始(12月28日～1月4日)

★観覧料

区 分	個人	団体(3人以上)
一 般	300円	240円
高校生・大学生	150円	100円
小学生・中学生	100円	60円

●小学生未満及び市内在住の70才以上の方は無料です。
 ●第2・4土曜日は小中学生は無料です。
 ●企画展・特別展等は別料金をいただくことがあります。

★交通

新京成線八柱駅・JR武蔵野線新八柱駅下車
 新京成バス小金原団地前駅行き「公園中央口」下車
http://www.intership.ne.jp/~kyouku/m_muse/

まつどミュージアム No. 9

発行日 2001年(平成13年)3月31日
 編集・発行 松戸市立博物館
 〒270-2252 千葉県松戸市千駄敷671
 ☎047-384-8181